いわむら一斎塾報

発　行
NPO法人いわむら一斎塾
事務局　江戸城下町の館
〒509-7403
岐阜県恵那市岩村町317
ＴＥＬ　0573-43-5087

富人を羨むこと勿れ。渠れ今の富、安んぞ其の後の貧を招かざるを知らんや。貧人を侮ること勿れ。渠れ今の貧、安んぞ其の後の富の貽せざるを知らんや。畢竟天定なれば、各其の分に安んじて可なり。

（言志晩録一九〇条）

釈　意

富める人を羨むことはない。富める人々が其の後、貧を招かないということがわかろうか、招くかもしない。また貧しい人を侮ってはいけない、後に富を招かないということがわかろうか、招くかもしれない。全て天の定めること―天意ともなれば、各々がその本分にそって生きなければならないのだ。

今の世相をみるに不況の経済社会の中では、貧富の差が生まれているのはたしか、人はすきこのんで一生の中で貧しさをよしとするのではない。「価値観」をどこにおくか「物」におくか「心」におくかによって変る。一人びとり、天が定めた「分相応」に生きるのがよいのである。

徳増省允

「敬」に心うたれる

近江聖人中江藤樹
記念館長　上田藤市郎

藤樹先生の死後百七十年余、一斎先生は藤樹書院を訪れ、布二百反と金一封を献じた。後日、藤樹の肖像画の賛として揮毫した詩が書院に掲げられている。

硯人已矣幾星霜
景慕今顔徳本堂
遺愛藤棚荒益古
孤標松幹老逾蒼
氣常和處春長燠
月正霽時風忽光
尚見士民敦礼譲
入彊不問識君郷

藤樹先生が亡くなって長い年月が経ってしまった。影ながら慕っている藤樹書院を今初めて訪れた。大事にしておられた藤棚は益々荒れて古めかしい。唯一の道しるべである松の幹に葉は青々としている。雰囲気が和やかで春がいつまでも留まっているように暖かだ。

月が冴え渡る時に、風もまた光ることだろう今もなお村人は先生の教えを守り礼儀正しくつゝましやかだ。里に入れば藤樹先生の故郷であることが問わなくてもわかる。

この詩を読むと、その美しさに心を打たれる。それは藤樹書院の藤棚や松の緑、陽の光月、風の色まで色彩豊かに歌いあげている。さらに、空気やそこに漂う村の雰囲気の暖かさ、そこに住む小川村の人々が藤樹先生の遺徳に染まり幾星霜にわたって礼儀正しさや謙譲のふるまいをとどめている美しさへの驚きと尊敬である。

景観の美しさと住む人々の心の美しさを併せて詠うことで、藤樹先生への敬慕の念をこれほど深く、しっかりと表現した詩はないと思う。一斎先生が先人である藤樹先生を心の底から尊敬しておられたことが力強く伝わって来る。

そして二人に共通するものは、儒学を究める者に不可欠の「敬」の精神である。「敬」とは心をそこから他へそらさない集中力である。

学びに対する敬が、それを教える師、先人に対する敬となり、立ち居振る舞いの随所に表われてくる。

この厳しさと慎ましやかさは、二人の肖像画、彫像、文章の片言隻句に接するとき、今の私たちの心に伝わってくる。ここが一番大切なところである。

藤樹書院　孝経全文の碑

藤樹先生は「孝経」を大切にし学びのもととしました。

平成二十年藤樹先生生誕四〇〇年を記念し、高島市小川の藤樹書院入口わきに先生自筆の孝経全文を刻んだ碑が建立されました。

一斎翁の「言志四録」は私の心の指針

佐藤一斎「言志四録」普及特命大使　窪田哲夫

私は、岐阜県恵那市岩村に生まれたのではない。なのに何故、幕末の碩学の人、佐藤一斎を学んでいるかである。私の生まれ育ったのは新潟県である。生まれは越後湯沢温泉の隣にある塩沢で、物心ついてからは長岡である。幕末の英傑河井継之助や小泉純一郎元首相の国会発言「米百俵」の小林虎三郎、さらには「やって見せて、言って聞かせてさせてみて、褒めてやらねば、人は動かじ」の山本五十六元帥の出身地である。

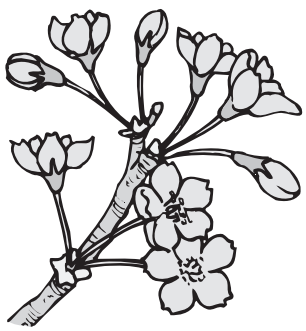
河井継之助は戊辰戦争で会津藩（奥羽列藩）と薩長軍（新政府）との間に入り、武装中立を計るが失敗する。「地下百尺の心」で勉学を志し、「吏は民の雇い」の政治をと江戸では佐久間象山等の門をたたく。本格的には備中、松山の山田方谷に学ぶ。佐藤一斎の孫弟子である。二十歳の頃に佐藤一斎「言志録」を写本している。小林虎三郎は佐久間象山の塾で吉田松陰とともに学び二虎と言われた。これまた一斎の孫弟子である。あまり知られていないが、一斎の塾頭までした長岡の高野松陰という人物もいる。

吉田松陰は高杉晋作、久坂玄端、木戸孝允、伊藤博文、山県有朋等が弟子である。高杉晋作は昌平坂学問所で寄宿しながら勉学している。小布施の高井鴻山は一斎の弟子であるが、そこに久坂玄端が訪ねている。鴻山と葛飾北斎は親交があり、小布施に北斎の壁画がのこっている。

私は二十代で司馬遼太郎の小説「竜馬がゆく」、「峠」を読んだ。坂本竜馬、河井継之助が大好きになる。国鉄改革運動の中で若い活動家と共に闘ったが、大きな対立組織、巨大な幾つもの壁を破る為に幕末の志士達の生き様やそれぞれの教えを運動の指針とした。その中に佐藤一斎の「言志四録」（川上正光編著）があった。勿論、川上先生には若手指導者に講話をしていただいた。また、西郷隆盛が沖永良部島で牢獄生活をしたときに言志四録一一三三箇条を一〇一箇条に厳選して生涯の訓戒とした。その一〇一箇条を私は五、七、五の文、心の指針、教材とし数千人に思いを伝えた。「士は独立自信を貴ぶ。熱に依り炎に附くの念起すべからず」（言志録一二一）、『自ら反りみて縮ければ』とは、我無きなり、『千万人と雖も吾往かん』とは、物無きなり」（言志晩録九九）を「独り立ち、自信と情熱、行動す！」、「無我なれば、無限の敵へ、吾は行く！」等である。

小泉内閣で田中真紀子外務大臣が人事問題で外務省に籠城した後、更迭されたことがあったが、小泉首相は「重職心得箇条」佐藤一斎著、安岡正篤訳を渡したようだ。

その頃、「重職心得箇条」を私なりに簡訳した原稿が手元にあった。数年を経て岐阜県に「事件」が起こって、県庁の方に私の「重職心得箇条」の原稿の写しを読んでもらった。それが岐阜県恵那市可知市長の目にとまり、岩村の皆さんとの付き合いが始まった。なんでも鑑定団のトップに佐藤一斎を紹介する企画を練ったり、昨年一年間の「一斎翁没後一五〇年」行事のお手伝い。一斎翁が十八年間居られた昌平坂学問所跡（湯島聖堂）で講話をさせていただいた。只々ひたすら感謝、名誉この上ないことである。



奨励賞・感謝状受賞

（その一）いわむら一斎塾が平成二十一年度岐阜県芸術文化奨励を受賞しました。

去る三月十九日、県庁で顕彰と奨励の表彰式がありました。古田県知事から表彰状と特製の記念トロフィーをいただきました。奨励賞は、今までの功績だけでなく今後さらに活躍が期待される団体や個人に贈られるものだそうです。

表彰の趣旨を重く受け止め、これからも一斎塾の理念の具現化に邁進して行きたいものです。

岐阜県芸術文化奨励
NPO法人いわむら一斎塾殿
あなたは芸術文化の分野で顕著な業績をおさめられました よってその功績をたたえ今後一層の活躍を期待し表彰します
平成二十一年三月十九日
岐阜県知事 古田肇

（その二）岐阜県博物館から感謝状をいただきました。

昨年十一月から今年一月にかけて、県博物館のマイミュージアムギャラリーをお借りして、特別展「佐藤一斎―その人と教え―」を開催しました。その催しに対し、「県民文化の向上に貢献した」と浅野館長より感謝状をいただきました。

感謝状
NPO法人いわむら一斎塾 様
あなたは当博物館マイミュージアムギャラリー平成二十一年度第六回展示「佐藤一斎 その人と教え」の開催にあたり貴重な資料を出展され県民文化の向上に貢献されましたよってここに深く感謝の意を表します
平成二十二年一月一七日
岐阜県博物館長 浅野裕一

顕彰することの大切さ

岐阜県博物館学芸部
山田暁男

「こんな人がいるなんて知りませんでした。驚きです。」

これは、今回の展示会「佐藤一斎～その人と教え～」に訪れたある方が口にした言葉です。佐藤一斎一門の系図を見ていた三十代くらいのその女性は、系図に出てくる著名な人物と佐藤一斎の関係について簡単に解説した私の話を聞いて、とても興味深そうに呟いたのです。

展示期間中、様々な方が来場されました。佐藤一斎に関心をもち、自ら書籍などを通して学習している方、関連書籍の購入を目的に来場された方、このような方の多くは、展示してある書籍の多さに驚いていました。中には、書名や発行所をメモして帰られる姿も見られました。そして、異口同音におっしゃっていたのは、今回のように佐藤一斎について顕彰する場をもっと多くもってほしい、そして、子どもたちに伝えてほしいということでした。

小泉純一郎元内閣総理大臣が、衆議院本会議においてその言葉を引用したことで一時スポットライトを浴びた三学戒や佐藤一斎ですが、来場された多くの方の様子からすると、その知名度はメジャーであると言うには少しためらうほどです。中には米百俵の故事を引用したことは知っていても、三学戒の引用のことは知らないという方もいました。ましてやその業績や「言志四録」、「重職心得箇条」の教えとともなると、言うまでもありません。

しかし、私の高校二年生の娘もそうであったように、興味がないのではなく、知る機会に恵まれずただ知らない人が多いだけであるということも来場した方々と接する中で気づきました。私のつたない解説にもかかわらず展示会場を再度見直す方がいたのです。誰もが教科書で一度は名前を目にする幕末の日本の指導者たちに大きな影響を与えた人物が岐阜県にゆかりのある人物であったことは、喜びを感じる発見であったのでしょう。そして、その教えが時代を越えて現代でも通用する人生の道標であったという心地よい気づきがあったのでしょう。

冒頭の女性が、「彫版名言録集」を買い求めている姿をショップで目にしました。佐藤一斎顕彰会やＮＰＯ法人いわむら一斎塾の皆さんの顕彰活動の確かさと大切さを身に染みて感じた瞬間でした。

佐藤一斎先生の墓参の旅

【旅行日】
平成二十二年二月二日（火）・三日（水）（一泊二日）

【参加者】 十二名＋現地参加四名

【行　程】

〔一日目〕中型貸切バスを利用。
岩村―恵那ＩＣ―諏訪ＩＣ（昼食の釜めし積込み）―六本木・深廣寺―お茶の水・湯島聖堂―小石川・後楽園―ホテル（新宿）

〔二日目〕ホテル―市谷・林家墓地―谷中霊園・佐藤一斎碑・立軒（一斎の三男）墓―岩村藩主大給松平家墓地―談合坂ＳＡ（昼食）―恵那ＩＣ―岩村

前日に降った雪があちらこちらに残る都内。ビルの間を吹き抜ける風も岩村とあまり変わらないくらい冷たい。六本木ヒルズにも程近い一斎先生が眠る深廣寺は、飲食街で雑居ビルが建ち並ぶ谷間にある。通りから細い路地を二十メートルほど入った正面に今風の門扉があり、「高明山」の扁額が目に入ってはじめて、お寺ということが分かるほど、初めての人には分かりにくい場所にある。繁華街のため、心無い人が入り込んで迷惑な行状が繰り返されるとのことで、最近は墓参を断っておられるとのこと。一斎先生の縁者である河田燕様を通じて事前にお願いしていただいたお蔭で、すんなり墓前に立つことができた。こじんまりとした墓域狭しと一斎先生の墓を中心に、両側に最初の奥様香圃女史と三度目の奥様梅閨孺人、その左前方には両親、右側には養子の河田廸斎などの墓が並んでいる。岩村から持参した香華をお供えし、一斎先生歿後一五〇年祭が無事終わったことの報告と、「言志四録」、「重職心得箇条」など不朽の教えを今に活かすことができることへの感謝を込め参拝した。

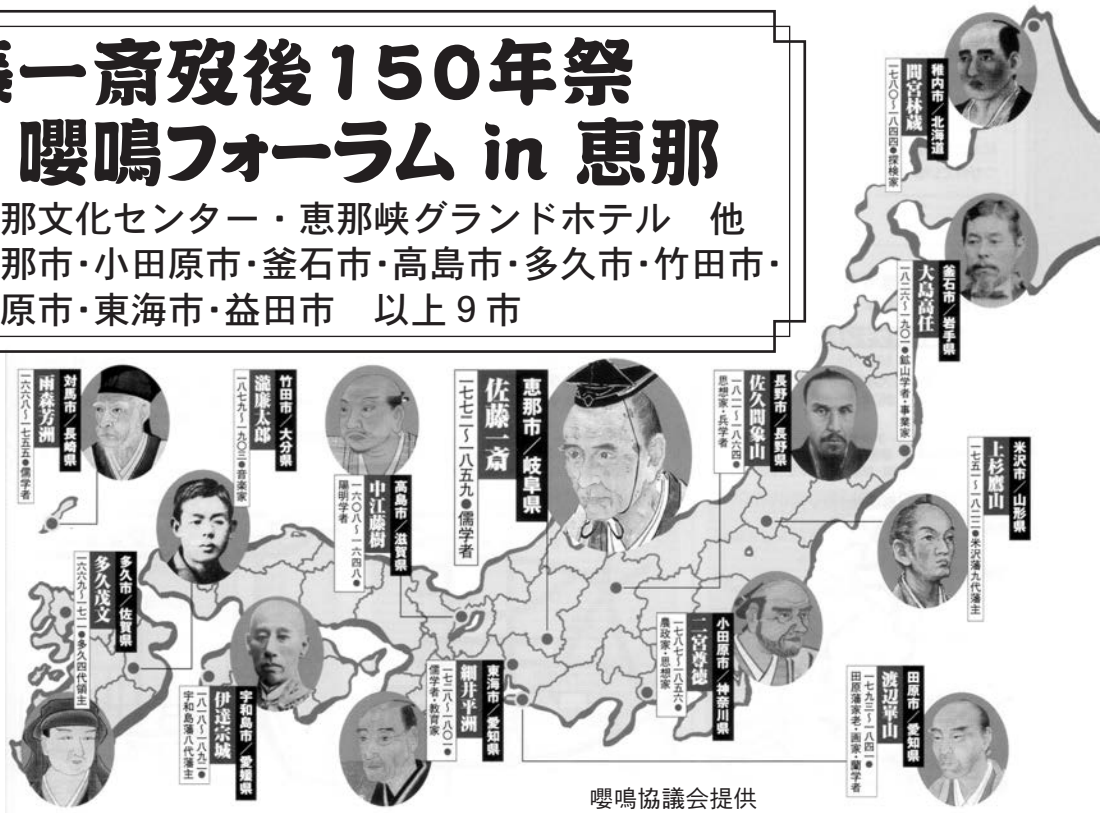
次いで、湯島聖堂へ移動し学芸員の案内で見学。一斎先生が活躍された昌平坂学問所跡を偲んだ後、徳川光圀ゆかりの小石川後楽園を見学。庭園の一角にある大きな石に佐藤一斎撰文、自筆が刻んである「駐歩泉碑記」を見学。

翌日は、市谷の住宅に囲まれた林述斎を始めとする国指定史跡の林家墓地、上野公園近くの谷中霊園で一斎先生顕彰の碑、三男の立軒墓を参拝の後、広大な墓地の中を歩くこと三十分、岩村藩主大給松平家の墓参など、まさにこの二日間はお墓めぐりの旅行だった。

会員の若森さんには、豊富な知識と経験が凝縮された分厚い資料の準備と、当日の案内をしていただき、参加者一同大いに感心すると共に感謝すること大でした。

佐藤一斎歿後150年祭
嚶鳴フォーラム in 恵那

会　場／恵那文化センター・恵那峡グランドホテル　他
参加市／恵那市・小田原市・釜石市・高島市・多久市・竹田市・田原市・東海市・益田市　以上９市



嚶鳴協議会提供

嚶鳴フォーラムin恵那を終えて

いわむら一斎塾
理事長　堀井　將成

学びをテーマに嚶鳴フォーラムin恵那も終了しました。

多くの皆様の参加により成功したフォーラムの成果を生かし、新年度より恵那市は生涯学習の都市宣言をされます。

市内の先人を顕彰しながら、教えを学び、人生に活かそうとする活動が始まろうとしています。

いわむら一斎塾も三学戒の終章『老いて学べば則ち死して朽ちず』の言葉を学んだ後で言志録八九条の『当今の毀誉は憪るるに足らず。後世の毀誉は憪る可し。一身の得喪は慮るに足らず。子孫の得喪は慮る可し。』の言葉が思い付きます。子孫に迷惑を掛けない様に老いた私は益々学ばねばと思います。

4月12日(日)
一斎塾

会場／恵那文化センター
講師／鈴木隆一先生
　　徳増省允先生
「一斎学に学ぶ心のありよう
～今、求められる大人の覚悟～」
参加者数／85名

多数の参加者により部屋の仕切りをはずし、講師徳増省允先生の「一斎学に学ぶ心のありよう」を熱心な眼差しで聴講されました。

7月5日(日)
一斎塾 静岡講座

会場／蒲原宿
　　東海道町民生活歴史館分館
講師／窪田哲夫先生
参加者数／60名

窪田先生の「堤一燈。行暗夜。勿憂暗夜。只頼一燈。」の迫力ある話に胸を打たれ、東海道記念館の見学と駿河湾の桜えびを土産に心に残る一日でした。

6月27日(土)
歿後150年祭名古屋大会
プレ嚶鳴フォーラム

会場／名古屋港ポートビル 講堂
公開学習会／童門冬二先生
　　吉田公平先生
アトラクション／岩村町少年少女雅楽演奏
　　心花（一斎の教えと現代舞踊）
参加者数／250名

岩村町からはバスで大勢参加しました。アトラクションは岩村町少年少女雅楽クラブの演奏。舞踊「心花」の力強い一斎の踊り、感動しました。

5月4日(月)
一斎塾 東京講座

会場／湯島聖堂講堂
講師／窪田哲夫先生
「佐藤一斎『言志四録』
　　今求められること。」
参加者数／90名

壇上には一斎直筆の書軸が掛けられ、「若者よ言志四録を学べ」と一斎の魂が乗り移ったかのような熱い熱いお話しに感動しました。

9月6日(日)
一斎塾 大阪講座

会場／大阪大学 中之島センター
講師／神渡良平先生
「西郷隆盛と佐藤一斎」
参加者数／180名

西郷隆盛にとって「言志四録」は生きていく上での「指針」であり、沖永良部島へ流刑の時も他の書物と一緒に持っていき、終日粗末な獄舎と厳しい自然の中で不平も言わず、座して書物を読み思索を続けた…との話を聞かせて頂きました。

8月2日(日)
夏休み親子体感塾
佐藤一斎学習会

会場／岩村公民館
講師／鈴木隆一先生
「親子で学ぶ言志四録」
ブック型貯金箱作成
（協力/とうしんTOSプラザ）
参加者数／50名（内 親子 36名）

「親子で学ぶ言志四録」の講演後箱型貯金箱作り、おじいちゃんとぼくの本の中から絵や言葉をえらび箱に描きオリジナルな貯金箱が出来て子供達満足の様子でした。

7月18日(土)
一斎塾

会場／ちこり村（中津川市）
講師／吉田公平先生
「陽明学からみた
佐藤一斎の人となり」
参加者数／300名

ちこり村はじまって以来と言われた参加者一杯の会場で、吉田公平先生は温かい人柄あふれる講義をして下さり、生きる勇気を頂きました。

嚶鳴フォーラム in 恵那　テーマ「大人たちが学ぶべきこと－親学」

10月24日(土)
視察研修会／恵那～岩村～恵那文化センター
言志祭～佐藤一斎まつり～

会場／岩村歴史資料館前
元内閣総理大臣　小泉純一郎様出席
参加者数／200名

一斎先生歿後一五〇年祭に併せて行なわれた第13回言志祭。小泉元総理が出席され「一斎先生の教えを大切に思っている」と挨拶され多くの人に感銘を与えて下さいました。

記念イベント

会場／恵那文化センター
記念講演／茂木健一郎先生（脳科学者）
「脳が喜ぶ、子育て、自分育て」
アトラクション／心花（一斎の教えと現代舞踊）
トーク／出演者・童門冬二氏（作家）　田渕久美子氏（脚本家）
鈴木隆一氏（佐藤一斎顕彰会会長）
テーマ・「大人たちが学ぶべきこと、親学…」
合唱／日本の歌を歌う会～佐藤一斎の教えによる三つの歌
「順境は春の如し」「清きものは」「三学」
「荒城の月」H22年 嚶鳴フォーラム開催地（竹田市）滝廉太郎/作曲
参加者数／1000名

10月23日(金)
市長サミット

会場／恵那峡グランドホテル

参加自治体	出席者	ふるさとの先人
恵那市	可知義明市長	佐藤　一斎
小田原市	加藤憲一市長	二宮　尊徳
釜石市	野田武則市長	大島　高任
高島市	高橋博志教育長	中江　藤樹
多久市	横尾俊彦市長	多久　成文
竹田市	首藤勝次市長	瀧　廉太郎
田原市	真木　猛教育長	渡辺　崋山
東海市	鈴木淳雄市長	細井　平洲
益田市	福原慎太郎市長	秦　佐八郎

コメンテーター／吉田公平先生
（東洋大学文学部中国哲学文学科教授）
亀田　徹　氏
（ＰＨＰ総合研究所主任研究員）
コーディネーター／佐々木陽一氏
（PHP総合研究所公共経営支援センター・コンサルタント）
総合司会／松本亜梨氏（フリーアナウンサー）
参加者数／230名

ふるさと先人交流会

アトラクション／岩村城女太鼓・抽せん会
参加者数／160名

今に生きる、ふるさとの先人を通して、それぞれの自治体が誇りをもって取り組まれている様子などが情報発信され、貴重な交流の場となりました。

特別資料展
10/14(水) ～ 11/1(日)
ところ/岩村歴史資料館

特別企画展 11/29(日) ～ 2010/1/17(日)　ところ／岐阜県博物館（関市）マイミュージアムギャラリー
講演会 11/29(日)
杉山孝男先生（名古屋大原学園学園長）「120分で聞く『言志四録』」
1/16(土)
近藤正則先生（岐阜女子大学教授）「佐藤一斎の地平～その生涯と学問」

いわむら一斎塾と私

会員　成瀬　久代

「私も参加したい。」新聞折り込みの参加者募集のチラシが目に入った。七年前のこと。一斎研究会だった頃の滋賀研修の旅。参加させて頂き一斎塾をより知ることになりました。「一斎会の勉強会によかったら来て下さい。」とお誘いを受け、初めて十年以上続けられている勉強会と知りました。皆さん熱心に勉強され、意見交換をしてみえました。

ＮＰＯ法人立ち上げの頃、一斎先生の教えが今、なぜ必要とされるのか、次代を担う子供達になぜ伝えていくのか、今、何をしなければならないのか色々と学ばせて頂きました。

「歴史を学ぶのではなく、歴史から学ぶ」鈴木隆一先生のこの言葉を忘れない様、一斎先生の教えを通して、生きる上での大切な事を学び、広めること、そして多くの人達に参加して頂くことを、めざしていきたいと思います。

これまで一斎塾を支えてこられた皆様のお蔭で、ご縁を頂けました事に心より感謝します。これからも人生の拠りどころとして、一斎先生の教えをより深く学んでいきたいと思っています。

特別公開講座「いわむら一斎塾」開講予定

期日	講座名	講師	会場
6月12日(土)	創立110年を迎えた下田歌子の「実践女子学園」の果たしてきた役割とこれから	湯浅　茂雄先生（実践女子大学学長）	岩村公民館
7月17日(土)	嚶鳴フォーラムの成果を生かす	米倉　彰一氏（金城学院大学講師） 岡本　典子氏（名古屋市牧野原保育園長）	いわむら城下町の館
8月21日(土)	生涯学習とＮＰＯ法人いわむら一斎塾	横山　幸司氏（県職員・大野町企画財政課長）	いわむら城下町の館
9月18日(土)	生誕150年を迎える三好學と桜	鈴木　誠先生（東京農大教授）	岩村公民館
10月16日(土)	第14回言志祭記念講演「佐藤一斎の生涯と教え」	近藤　正則先生（岐女大教授）	岩村公民館
11月20日(土)	佐藤一斎「言志四録」～今、求められること～	窪田　哲夫氏（言志四録普及大使）	文化センター
23年1月15日(土)	生涯学習社会に佐藤一斎の教えを活かす	上寺　康司先生（福岡工大教授）	岩村公民館

「いわむら一斎塾」がめざすもの

二十一世紀を生き抜く教養豊かな人材と指導者を養成するために、郷土が生んだ幕末の偉大な碩学佐藤一斎翁の教えを基本理念として、広く高い見地から多様な学習と修養の場作りに関する事業を行い、子どもから大人まで幅広い層に至るまでの「人づくり」「心そだて」及びそれを活かしたまちづくりの推進に寄与することを目的としています。

目的達成の取り組み

(1) 佐藤一斎の教え（「言志四録」）を学ぶ定例学習会の開催
(2) 郷土の先人や歴史に関する公開講座及びワークショップの開催
(3) 各種団体等からの要請による郷土の先人に関する講師の派遣
(4) 郷土の先人に関する情報誌・書籍の発行
(5) 郷土の歴史や先人に関する書籍・論文・資料の収集
(6) 郷土の先人の知恵を今に活かすイベント・フォーラム等の開催及び協力
(7) 郷土の先人から学ぶ関係団体との研修会及び交流会の開催

一斎塾が紹介する書籍

- 名言録集　五百円
- おじいちゃんとぼく　千五十円
- 言志四録抄日捲り　七百円
- 大人の寺子屋　六百円
- 重職心得箇条　八百円
- 生き方ルネッサンス ―佐藤一斎の思想　二千六十円
- 佐藤一斎　三百円
- 下田歌子著 女子の修養（現代語訳）　七百円

あとがき

第八号をお届けします。

佐藤一斎歿後百五十年祭記念嚶鳴フォーラムを二頁増では語り尽くせない程の大変盛大の中に終了する事が出来ました事、ご協力いただいた先生方はじめ各関係者の方々の並々ならぬご尽力のお蔭と感謝申し上げますと共に、一斎塾の皆様のご協力に感謝致します。

今も胸深く残っている温かい思いを、このまま埋めてしまう事なく、他所には無い貴重な財産、郷土の誇りを伝え残そうとしている姿を情報にして各方面に、又次世代に発進していかねばと強く思っております。